

ある音楽家の美学的告白

レオニート・クロイツァー 著 中瀬古 和 訳
音楽之友社 1989年

14歳の夏、「この本をお読みになって」と恩師から手渡された私にとって大切な一冊です。手に取ると当時のレッスン室での光景が何故か無声映画の様に甦ります。「クロイツァー先生がね、」といつもより華やいだ表情でお話しされる恩師、本を開くとその方の生のお言葉が目に飛び込んできました。

「最上の訓練によっていかに混沌から真の自由が生まれるか、いかにして最終の簡潔さ、心理にまで鍛え上げられていくか」

「ね、君、この歳になっても勉強すれば指がよく回るようになり、音楽も新しいことが分かってくるようになるものだよ」

私の本棚の常に目にとまる場所に鎮座し、現在御年101歳になられる師と共に私を見守り、励まし、道を誤らぬよう導いてくださる、そんな存在です。

皆さんの心に残るフレーズが見つかることを、そして皆さんにも大切な一冊との出会いがあることを願って。

安村 真紀（福岡女子短期大学教員）